

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4171600168		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂 グループホーム あったか荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字三間坂13842番地12		
自己評価作成日	平成25年2月13日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の健康管理と穏やかな生活を送って頂けるよう環境づくりに努め、異常時は医師、家族と連携を図り、入院治療や看護師による治療を行い、ご家族様に安心していただいている。

地域の消防団員様の運営推進会議への出席、防火訓練への参加で適切なアドバイスを頂き、災害時に備えることができました。地域の婦人会、小学生のボランティア訪問もあり一緒に楽しく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から歩いて数分の場所に平屋建てのグループホーム「あったか荘」がある。ホームの隣には母体病院があり、医療連携体制が整えられている。近所には小学校があり、子供たちの通学路で明るい声や電車が通る音が聞こえる。ホームの理念である「一緒に、楽しく、のんびりと」入居者と職員がゆったりとした時間を共に支え合いながら、地域に溶け込み過ごされているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ボランティア訪問、ご家族を笑顔で受け入れゆっくり過ごしていただいている。	「一緒に、楽しく、のんびりと」の理念を毎朝唱和し、全職員が理念を共有し、理念に添った対応ができるよう日々、努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民のボランティア訪問、地元小学生の総合学習の一環としての訪問、公民館掃除、草払いに出て地域の方との交流も出来ている。	地区の回覧板がまわり、公民館掃除、清掃活動に参加している。また、地域住民のボランティアや小学生を受け入れ、地域の一員として交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防火訓練時に地域消防団員の参加を頂き利用者の身体的、精神的状態を確認していただき災害時に備えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見が出た場合は会議開催時管理者が説明し、了解していただき職員ともミーティング時話し合い実行するようにしている。	会議では、ホームの状況や行事報告が行われ、地域との情報交換も行われている。そこで出た意見を全職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護係、生保担当者とも日頃より情報提供し協力をお願いしている。	市の担当者とは、日頃より報告・相談を行い、良い協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者様の行動を見守り、事故のない介護を目指している。夜間、立位不安定な方へ転倒防止センサーを設置しているが行動を制限しているわけではない。 (ご家族には事前に説明し了解を頂いている)	ホームの横を電車が走り安全柵もない。以前に入居者が線路を渡り危険だった為、安全上、玄関はタッチセンサーで中から自由に入りできないようされている。外出時は、職員が付き添っている。	今後も、自動ドアのスイッチに頼らないケアの検討に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時虐待について話し合い、身体的虐待、言葉の虐待等ないようお互い職員間で注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居の方は姉妹とも話し合い今後の支援の方向性決めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定時、入居時に荘生活や救急時の対応等説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満、ご家族のご意見があった場合はその都度ご家族や職員と話し合い解決するよう努力している。	面会時に施設長が直接、家族から意見を聞いたり、入居者の会話の中から意見をくみ取り、それを運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い職員の意見が出た場合はその都度協議し運営がスムーズにいくようにしている。	ミーティング時には職員の活発な意見が出ている。また、施設長が個別に話を聞きながら、その意見を協議し運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は勤務状況等を報告している。又休憩室の完備、職員旅行、ボーリング大会、バレー大会等行い親睦を深め福利厚生も整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は法人全体で取り組み、各委員会で研修を行っている。新人職員には施設長や介護福祉士が個人こじんにあったケアを行うよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修、勉強会には参加しているが同業者との交流はできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、不安、心配ごとがないか尋ね、もしあればご本人、ご家族を交え話し合い解決するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活の中で介護で困ったこと等なかったか、尋ね今後のホームでの生活が穏やかで過ごせるよう生かし、ご家族の面会時、荘での生活状況を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、管理者がご本人、ご家族に在宅生活状況、認知症状等をお聞きし入所が望ましいか、他のサービス利用で在宅生活が可能か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる範囲は自分でしてもらう介護をし生活能力の低下を防ぐ支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご面会時、荘生活での生活状況を報告し、穏やかな生活が維持できられている事を確認してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時のお友達や馴染みの方が訪問し楽しく過ごしていただけるよう雰囲気作りをしご面会を歓迎している事が伝わるよう対応に配慮している。	近所の方やゲートボール仲間が面会に来たり、家族の協力でお墓参りや自宅へ戻ったり、馴染みの関係が途切れない支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士と一緒に過ごせるよう座られる位置にも配慮し孤独にならないよう心配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居の時は病室を訪問しはげましの声掛けしご家族にお会いした時は病状等聞き不安が少しでも軽減されるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを重視し否定せず、まずは受け入れ対応し穏やかな生活の維持ができるよう支援している。	日々の会話の中で意向をくみ取り対応されている。また、困難な場合は、日頃の表情や行動にて把握されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に在宅時の生活歴を聞いたりご家族に在宅生活状況をお聞きし、荘生活に反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活パターンの把握に努め、介護拒否あるときは対応する介護者が変わったり、心身の状態に応じた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画立案時ご本人、ご家族の介護に対するご意向を必ず聞き計画に反映させ、計画説明時ご意見あれば取り入れ署名、押印して頂き写しをお渡ししている。	主治医へ状況報告し指示をもらい、本人や家族、職員より情報収集している。モニタリングや評価を定期的または随時行い、本人や家族の意向を尊重した介護計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録、健康チェックを個人記録し介護者間での情報共有とし介護計画書に反映している。又、一か月毎の評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況よければ外泊外出可能としご家族や職員と外出外泊されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域婦人会、小学生、中学生の体験学習を受け入れ地域の方とのふれあいを実感して頂き楽しめながら穏やかな生活を送られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他科受診時は主治医の情報提供書を書いて貰い、受診結果はご家族や施設長が主治医へ報告している。	希望のかかりつけ医の継続支援が行われている。ホームのかかりつけ医へ変更される方も多く、24時間適切な医療を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報提供し異常時は即連絡し受診への配慮をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関へ情報提供し連絡を密にしご本人が安心して入院生活が送られるよう配慮している。又、ご本人にも面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の高齢化もあり重症化のリスクも高く、ご家族様と重症となられた場合の方針を常々話し合っている。尚、主治医や病院長と相談し支援している。	重度化の指針を入居時に説明し、その状態になると主治医、家族、ホームと相談をしながら支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒時の対応や異常時のマニュアルを作成し折に触れ確認し、主治医や看護師への報告を行い、指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行い避難方法の把握に努めている。地域消防団員様にも避難訓練に参加頂き、入居者様の避難能力の把握、確認をしていただいている。	夜間想定火災訓練や防災訓練が行われている。地域の消防団員も参加し、避難場所や移送手段等の確認が行われて、地域との協力体制が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の思いや誇りを大切にし、言葉掛けに注意し排泄誘導等を行っている。	人格を尊重した言葉かけや、プライバシーを損ねない対応に努められている。書類等は事務所へ保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話の中から出来る事や意欲等を見つけ出し、自己決定できることの説明をし、実行されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく個々のペースに合わせた生活とし、希望や思いをできるだけ叶え快適で安全な生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は化粧水やクリームを顔につけ入浴後は自分で選んだ服を着用し身支度される方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けに工夫し食欲がでるよう心掛け食前の食卓拭きや食後のお盆拭きや茶碗拭きを一緒に行っている。	食前食後のお盆や茶碗拭きを職員と一緒に行われている。入居者と職員が会話をしながら、畑で採れた野菜をおいしく食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人こじんの食事量を把握し、全量摂取となるよう量を加減し提供している。10時15時におやつ、お茶を提供し水分補給し、要求あればいつでも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けし、できない方の義歯洗浄介助を行い清潔を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本とし、尿意ない方は排泄チェック表を活用しトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレをベッドサイドに設置し見守りや介助で排泄されている。	排泄チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄支援が行われている。排泄の自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは食事後やおやつ提供時の水分量に気配りし、便秘症の方は主治医と相談し緩下剤や座薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常は入浴日を決めているがその日に拒否ある時は次の日に声掛けし、ご本人の意思で入浴されている。	入居者の状況に応じた、機械浴、2人介助、個別入浴が行われ、安心して入浴ができるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間ベッドで休みたいと訴え時は居室で休まれと思いおもいに過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が全部理解しているとはいえないが、誤薬をすれば大変なことになることを事あるごとに説明し、服薬介助は介護者二人で本人であることを確認しながら行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のお盆拭きを日課とし介護者と一緒に後片付けをされたり、レクリエーションや広告紙で箱折したり塗り絵をされて過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望強い方とは散歩に出かけたり天気の良い日は屋外散歩に出かけている。又、ご家族様と自宅に帰られている。	天気の良い日は散歩に出かけ、家族の協力で自宅へ戻ったりと外出支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理として手持ちされ、紙に包みゴミとして捨てたり、なおし込み無くなったと言い出され泥棒がいると利用者間でささやかれ、施設長管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話してほしいと訴えあればご家族様に電話しお話しされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式となっており美味しい香りが漂い、盛り付けると見に来られたりされている。又、ディルームからは道行く人や電車が見え、採光も良く居心地よく過ごせられる。	天井が高く、共有スペースが広く明るく感じられる。ホールには雛人形や花が飾られ、大きな窓からは電車や道行く人を眺めながら、ゆっくり過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リクライニングチェアやソファ、長椅子があり気の合った方同士座り、話したり歌ったりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	娘さんの壁掛けやご本人の作品などを貼ったりして自分の居室とわかるよう工夫している。	入居者の使い慣れた物を持ち込み、写真や絵を飾り落ち着いて過ごすことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、廊下や入浴室には手すりを設け、安全な生活が維持でき、居室入口には表札を掛け、自分の部屋を確認してもらっている。		